

## 令和6年度 第2回北海道立文学館運営評価委員会

開催日時 令和7年3月18日(火) 13時30分～15時05分

開催場所 北海道立文学館 地階講堂

### I 次第

- 1 主催者挨拶
- 2 議題
  - (1) 令和7年度展覧会事業(案)について
  - (2) 令和7年度教育普及事業(案)について
  - (3) 令和6年度利用者満足度調査について

### II 出席委員

(敬称略；あいうえお順)

| 氏 名   | 所 属 等                                         |
|-------|-----------------------------------------------|
| 東谷 一彦 | 【学識経験者】<br>札幌国際大学短期大学部 非常勤講師                  |
| 辰巳奈優美 | 【利用者】<br>公益財団法人北海道文学館 賛助会員(俳人協会北海道支部 事務局長)    |
| 古内 良輔 | 【地域関係者】<br>中島公園管理事務所長(中島公園地域コミュニティ推進協議会 事務局長) |
| 渡辺 俊之 | 【社会教育関係者】<br>公益財団法人北海道生涯学習協会 専務理事             |
| 渡部 浩士 | 【学校教育関係者】<br>学校法人聖公会北海道学園 認定こども園聖ミカエル幼稚園 教頭   |

### III 委員からの意見等

#### 委員)

今ご説明を伺いましたが、いつも説明いただくたびに、驚き、感心して聞かせていただいています。今回もたくさんの内容で素晴らしいと思います。北海道教育委員会による利用者満足度調査結果で、「今後も利用したい」という回答の割合がアップしているということで、文学館の職員の皆さんがそれぞれ実施されていることが来館者に伝わっている結果であり、素晴らしいと思います。調査結果の中で年齢は10代が増えているこ

とに対し、降矢なの原画の特別展のため、年齢層が低くなったと考えられると分析されていますが、全体的なご苦勞の中で、10代の利用が増えているのはありがたいと感じます。しかも教育普及事業の内容が大変濃くて、若い人たちにインパクトの強い、いろいろな事業を行うことで、こういった方々が次にリピーターとなって、歳を重ねても文学館に足を運んでくれることは素晴らしいと思います。当館の運営方針といいますか、目的、意義が十分達成されていると感心しております。令和7年度の事業計画についても大変きめ細やかで、よく考えられた内容になっていると思います。

#### 委員)

いつも、文学館を利用させていただきありがとうございます。なかなか個人的に時間を取ってこちらの展示をゆっくり拝見できなく申し訳ないと思いますが、今日は木原直彦さんと北海道の文学ということで、かなり詳しくお話を伺うことができ、北海道の文学だけではなく、芸術全般にかかわる歴史を感じました。大学時代のゼミで山田昭夫先生、小笠原克(マサル)先生に教えをいただき、卒業の時も面接いただいたこともありしたので、そういった個人的な思い出もありますし、その先生方が北海道の文学史に深く関わってこられたわけですが、お二人ともあまり長生きされなかったのがとても残念です。卒業してから以降もいろいろ話を伺う機会があれば良かったと勝手ながら思います。チラシをいただいたときに、大学時代の同級生のグループLINEにアップして、先生方のなつかしい思い出がある方もたくさんいらっしゃるので、是非見てくださいと宣伝させていただいております。特に氷室冴子展の時は皆さんとても興味があったようで、見に来られた方も多かったと思います。

グループLINEの中で、朗読のサークルの方がいて、抽選で朗読が当たって、参加、朗読できたと、定期的に行っている朗読会とは別に行っている朗読会だと思うのですが、抽選ではなくて、もっと朗読の機会を増やして欲しいという声がありました。この抽選しているというのは、朗読したいという方がたくさんいらっしゃるということですね。別の方は、無料の展示を増やすという、ちょっとわがままな声もありました。令和7年度の展示ではファミリー文学館が無料ということで、やはり収蔵品を展示するなどの場合

は無料にできても、外部からの展示品ですと無料にはなかなかできないと思います。

#### 委員)

令和7年度の事業計画をお聞きしまして、毎年ですが、これだけのメニューを実施されるというのは本当に敬服に値すると思います。個人的には安部公房の特別展が楽しみです。

安部公房の作品を授業で扱うのはとても大変なことです、安部公房は魅力的な作家で、本当に貴重な展示になると思います。結構活動が多岐にわたっている方なので、これを展示としてどういう風に構成していくのかというあたりが、とても楽しい気がします。それとおぼけのマールは、札幌を舞台にしている絵本ですから、これも関連してセミナーや講演会ということですが、このあたりもどういう風に実施されるのか楽しみにしているところです。

教育普及事業関係では、高校生や大学生がこの文学館の存在を知って、足を運んで、見に来ていただきたいと思っています。ただ高校では段々、文学作品を扱えない状況にあり、そういう意味でもこの文学館は、本当に貴重な存在であると思います。調査結果によりますと、チラシやポスターでこちらの施設を知るという回答もありましたので、札幌市内は結構高校生が多いですが、ポスターなど配付していただければと思います。

これは思いつきではありますが、大学ですと、図書館に学生のボランティアスタッフがおり、学生が館の運営を手助けしている活動を見たりしていると、文学館でもなんらかの機会に高校生や大学生などがボランティアスタッフとして活動に参加するという形で、高校生や大学生がここ文学館に足を運ぶという風にできたらと思います。

本当にこれほどの新年度計画を見ますと、私も楽しみにしております。

#### 事務局)

ボランティアスタッフについては、当館でも是非お願いしたいと思いますが、今は少ない機会ではありますが、読み聞かせで近隣の高校、静修高校の生徒さんに協力いただいたり、特別展の関連事業では、札幌南高校の書道部の生徒がここ文学館を会場にして書道パフォーマンスを披露してもらい、その作品を地階ロビーに展示して来館者に見て

いただいたところです。こういった事業の時に、特に教育普及事業の中でお手伝いできていただくなどしていただければと思います。

#### 事務局)

安部公房展については、去年、神奈川県近代文学館で行われた展覧会が、規模・内容とも現時点で決定版であり、面積も当館の約2倍で、非常に多くの資料を展示していたので、その展示内容を最大として、それらの中から、全部持ってきたいのですが、当館の展示スペースも限られるので、去年の安部公房展のイメージをなるべく損なわない程度にまとめていきたいと思っています。もちろん北海道のコーナーも設けたいと考えています。従来の規範が転倒する世界を描いた1970年代の小説ではありますが、現代に直結する切実な内容が書かれており、若い方たちにもアピールしてきていただきたいと思っています。いろいろなジャンルに活躍の場が広がっていますが、映画も、展示期間中に上映したり、その作品を朗読したり、監修が評論家の三浦雅士(みうらまさし)先生ですので、その方の講演も検討しており、いろんな広がりを持って行きたいと考えているところです。

当館では定期的に朗読会を実施していますが、読み手の方はどうしても固定しがちで、いつも読んでいる方、本人はまた読みたいので、辞退することはないで次年度も引き続き出演して朗読したいというご意向で、それはそれで大切にしながら、今年は開催中の木原直彦展の関連事業として、展示会場で複数回、朗読会を行ったところです。その時は朗読する方を事前に公募し、朗読会5回で延べ10名の出演予定に対し、3倍もの希望があり、やむなく抽選とせざるを得ませんでした。とても反響があることが分かりましたので、次年度も特別展の関連事業の一つとして朗読会を設け、少しでも多くの方が参加できる機会を提供していきたいと思っています。

#### 事務局)

今回の特別展のチラシ裏面に記載がありますように、「ミニ解説&朗読会」という事業を5回、学芸員による10分間の解説後、展示会場で朗読会を行い、公募による読み手2人1組でボランティアとして参加いただいたところです。

## 委員)

これら次年度の計画案を見ますと、本当に年間のスケジュールが精選されているというか、培った経験の中でいろいろ展示の準備をされたり、本当にすごいレベルだと思います。1年先のことまで考えて展示を準備していくわけですし、一つ一つの展示はある程度期間を取って、準備もかなり大変かと思いながら、今日も展示を見させていただきました。一つ一つ情報を整理しながら展示していることを考えると、関わっているスタッフの方々の苦勞が見えるようでした。今日、展示室でお話を伺ったときに、なるほどと思ったことがたくさんあったのですが、「文学館」という名前がついた任意団体の話がありましたが、ハコ物を持っていないにもかかわらず、「文学館」と名乗っているところも、とても興味深いと思いました。立ち上げの時からかかわられている方の熱意が、この団体の名前にもでていてのではないかと思ったところです。全国津々浦々、文学館があり、そういったネットワークの中で他の施設の展示などを参考にしたり、場合によっては借り受けたりしているところも興味をそそられました。

ひとつ拝見していて思ったのは、個人の思いが強ければ強いほど、実際文学を創られている方をよく知っているか、お目にかかってやりとりしていた時に、リンクすればするほど、入っていくような展示というか、今若い人たちが文学に親しむ機会が昔に比べて減っていると思いますが、それを普及啓発していく活動も大変だと思いますが、少しでも興味を持って貰える方を増やしていくような、そういう計画も大事だと思います。大変だとは思いますが、そういったことを地道に続けていくしかないのではと思います。また集客はもちろん大事だと思いますが、資料を保管する、収蔵するというのが、実際に歴史をつないでいくような作業というか、全ての人に関心を持って貰うと言うよりは、きちんとした形で保存されることが、とても大事なことだと思います。

収蔵する環境がとても大事ということが最近、仕事の中で痛感することがありました。モノを預ける場所でも、年間を通して空調の管理をしっかりとしないと、管理の状態が悪いとどんどん、置いてあるモノの保存状態が悪くなっていくということがあり、保管の大変さ、それも含めて役割を担ってきたと思うと、今後もそういった大切な役割を果たして行っていただきたいと思います。

おぼけのマールの特別展もあるということですが、私の会社でもコラボして絵本が出版されており、こちらでも絵本を作ると言うことでいろいろ打ち合わせして作り上げていくと思いますが、特徴を捉えて、はっきりと施設名は描かれていないのですが、この施設であると思えば分かるような、絵が描かれていて、コラボして絵本が出来上がりました。

絵本を作っても、それがなかなか飛ぶように売れるかというと、そういうものではなく、地道にやっていくしかないわけです。発刊して一年くらいたっているのですが、保育園、保育士さんが選ぶ、おすすめの絵本にピックアップされ、うちが直接売りものとして出しているわけではないのですが、ちょっと話題になりました。どこからこういう話が盛り上がるか分からないと思うところです。私も個人的におぼけのマールはとても興味があります。

#### 事務局)

いろいろ舞台裏というか、その辺の苦労を少し分かっていただけたのではと思います。最近は資料の収蔵の関係でも、これまで定期的に燻蒸を行っていたのですが、その薬剤が今後製造されなくなるため、これまでの燻蒸に替わる防虫対策などを考えていかなければならない、そんな課題を抱えているところです。空調については開館して30年を迎えることから来年以降、道教委で修繕することを検討しているのでとりあえず心配ないのですが、資料保存の防虫対策などはちょっとこまった状況です。そんな中、やりくりしながら事業を進めているところです。

#### 事務局)

このたびは貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。今後の事業運営に生かして行きたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。